

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600377		
法人名	社会福祉法人 北斗泰山会		
事業所名	グループホームあいや		
所在地	印西市草深1132-8		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生き生きと暮らせるよう、ひとり一人の言葉に耳を傾け、その時々への想いに寄り添いながら、日々の生活支援に取り組んでいる。法人母体のクリニックと医療との連携は充実している。また、訪問看護、訪問歯科との連携も力を入れている。毎日のバイタルチェックをはじめ、ご観察を通して、利用者様の体調の変化にも目を行き届かせている。外出の機会が減っている中、三密に気を付けながらドライブに出掛けている。近隣の公園やお寺に出向き、春の桜、秋のコスモスや彼岸花鑑賞など季節や風情を楽しめるよう、外出の機会を増やしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

”天に星、地に花、人には愛(あいや)”をスローガンに、住み慣れた地域で自立した生きがいのある生活の支援をしている。ベテラン職員が多く、日々の暮らしに小さな工夫を加えて回想に役立てたり、見守りを根気よく続けることで穏やかな暮らしとなるよう努めている。ホームの中でも家での暮らしと変わらない生活づくりを実践している。法人の医療機関と連携し、定期健診やいつでも相談に乗れる体制が築かれている。介護計画は利用者・家族と話し合い、納得のもとに作成されている。居室やリビング等の共用空間も清掃、整理整頓が行き届き、感染対策にも力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	社会福祉法人 北斗泰山会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、内玄関に掲示し、管理者・職員は常に共有を意識し、日々の業務に当たっている。	勤務歴の長い職員が多く、ホームの強みとなっている。家庭的な雰囲気づくりに努め、整理、整頓、清潔の保持、暮らしを楽しむ工夫に取り組んでいる。管理者は”天に星、地に花、人に愛(あいや)”というスローガンを掲げ、職員とともに運営に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	随時、見学や相談などに応じている。職員と入居者で近隣のお店に出掛けたり、公園散歩、散歩も日常的に行っている。	地域の自治会活動は少ない現状であるが、ホーム周辺のコンビニやミニゴルフ場、学校などへ散歩で立ち寄りし、地域に溶け込んで生活している。近くに大学もあり、毎年、介護実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議などに参加することにより、一般の方々に施設の特徴などを理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者への取り組みや、サービス状況について話し合い、今後活かせるようにしている。	運営推進会議は書面開催としており、運営状況、サービス提供内容、医療対応、感染対策の話し合いをしている。会議の議事録は市役所の担当課、民生委員、自治会長、家族に送付している。	文書の配布のみとなっている会議メンバーからも意見、提案、情報を得て、議事録に掲載し、実質的な会議への参加を促す工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、電話などで市担当者とやりとりをしている。必要に応じて役所に出向き、話し合っている。	事業継続計画(BCP)や防災計画、その他の各種提出書類の作成などについて、市役所や地域包括支援センターの担当者へ質問、相談をおこない、顔なじみの関係づくりをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や朝の申し送り等で、随時、話し合いの場を持ち、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は4か月ごとに開催しているが、事故等の発生、恐れがある時はその都度会議を開催し、対応を話し合っている。「身体拘束等適正化のための指針」と「身体拘束廃止フローチャート」にもとづき対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や朝の申し送り等で、随時、話し合いの場を持ち、虐待が起きないように実践している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で、利用者に関する権利擁護について話し合い、実践の現場においても日々活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、重要事項説明後、質問等に応じ、納得いただいた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は家族については、来所時や電話等で直接伺っている。また、玄関に意見箱を設置し利用していただく。	ベテラン職員を中心に、家庭での生活を意識してケアをしている。家族からの意見や要望は、面会時や電話などで伺い、それぞれの希望を反映した支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝の申し送り等で、意見交換の場を設けている。	職員間の関係は極めてよく保たれており、管理者も安心、信頼している。勉強会、行事計画、各種委員会には、職員が役割分担して参加しており、主体的な運営となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金、資格手当、労働賃金の向上などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を持ち帰り、職員会議等で伝えている。また、外部の研修会等への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の居宅介護支援事業所や、病院等への連絡や現状に対する相談を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、ご本人とお会いし、直接、お話を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、ご家族と連絡を取り合い、情報を共有し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から得た情報から、今、生活の中で必要と思われるケアをサービスに取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、職員と共に作業をしたり、家族的な関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しては、ご本人の状況に変わりがある場合、情報を共有し、どう支えていくかを共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出、外泊、電話によるやりとり等、良好な関係が続くよう時間を作っている。	近隣の散歩やコンビニでの買い物を通じて、地域との交流を続けている。家族とは面会や電話などでつながりを保っている。2～3ヶ月ごとの訪問美容は多くの利用者の楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関りを観察し、友好的な関係を築けるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、他施設等の機関への紹介や情報の共有や連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意向を尊重し、日々の申し送りや会議等で情報を把握している。	入居時のアセスメント、日々の申し送り、利用者の表情や仕草などから思いや意向をくみ取っている。記録に残し、職員間で共有が図られている。利用者本位の暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等に関しては、今まで利用されていた事業所からのフェイスシートやご本人やご家族からの情報をもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での観察、定期のバイタル測定、訪問看護・医療による連携で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員と話し合い、また医療面からの情報を反映させた介護計画を作成している。	利用者個々に即した介護計画作成のため、職員間でカンファレンスをおこなっている。個別記録をもとに、家族、医師や看護師など、関係者の意見も反映して話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を日々記入し、申し送り等で情報を共有。介護計画の見直し等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内外の事業所と連携をとり、その時々ニーズに対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力病院や施設、近隣する店舗等と関わりを持ちながら、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に診療所があり、ご本人やご家族への説明、納得のもと受診している。また、必要に応じて紹介状を作成している。	入居時に法人内診療所の説明をおこない、同意を得て受診している。月2回の訪問診療、週1回の訪問看護、月1回の訪問歯科で健康管理している。外部の専門医にかかる場合は、法人の診療所が紹介状を作成する。通院は家族対応だが、難しい場合はホームがおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、ご利用者のバイタル及び状態をファックスし、情報提供、訪問看護と協力体制のもと支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院担当者へ。退院時期には、法人診療所への情報交換がスムーズに運ぶよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変の際の対応を確認している。状態が増悪した場合には、再度、ご家族と今後の検討を行っている。	入居契約時に、ホームの重度化対応・終末期ケア対応の指針を提示して説明し、同意を得ている。終末期は医師の指示のもと、家族への説明と延命などの意向・要望の確認をしている。職員は利用者と家族に寄り添う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で、学習の機会を設け、対応の実践を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の災害訓練を行っている。地元消防署と協力体制を整えている。	年2回、避難訓練・消火訓練を夜間想定も含めて実施している。避難場所は消防署の指導を受け、玄関や中庭などを設定している。備蓄食料・防災設備の点検も同時におこなう。発電機はあるが、稼働訓練まではしていない。	備蓄品の一覧表を作成して見える化し、さらに発電機の稼働訓練も実施されることを期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え不快にならないよう、会議等で職員の共通理解を図っている。	居室に入る場合は必ずノックをする。トイレ介助中のドアの開閉や声かけにも気を配っている。入浴時の同性介助の希望にも対応している。日常的に職員間で気づきを共有し、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活では、入浴や受診など、ご本人に勤める形で声掛けを行い、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合に対して無理強いせず、思い思いに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など自分で選べる方は職員と選んでいる。それ以外の方でも、着たい服をできる限り選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を調査し、ひとり一人の嚥下や咀嚼に合わせた食事提供をしている。ご利用者と一緒に食事や片付けをしている。	食材は業者が納入し、調理は職員が交代でおこなっている。行事食メニューがあり、利用者の希望を反映している。ホームの畑のサツマイモ、大根、柿などを利用者と一緒に調理して、おやつに干し柿、サツマイモチップ、ふかし芋などを楽しんでいる。干し柿づくりで、一緒に柿の皮むきをおこない、回想法になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事・水分摂取量を毎日記録し、状況に応じて捕食などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防も含めて、食事前はイソジンでうがいをしている。食後の口腔ケアも一人ひとりに適した支援を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ひとり記録し、排泄パターンを把握し声掛け・誘導により、トイレでの排泄等の支援をしている。	排泄チェック表を作成して個別のパターンを把握している。職員間で共有し、トイレ誘導して自立につなげている。日中は、ほとんどの利用者が布パンツにパット、リハビリパンツで過ごしている。夜間はポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を摂取し、体操を行っている。必要に応じて、医師に便秘の対応の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り、ご本人の希望に添った入浴を行っている。時間を決めずに、その時の状況に応じて入浴していただく。	入浴は週2回を基本としている。利用者の気持ちに沿って、タイミングを合わせて声かけをしている。季節によってゆず、菖蒲などを入れて楽しんでいる。好みのシャンプーやボディソープを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご本人の希望を尊重している。日中も個人の時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースに用法・容量を貼り、個人情報の内服薬欄に効果を含め記載している。また、食べ合わせにも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれと話し合い、日々の役割を決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に添って、散歩や買い物等を日常的に支援している。普段いけない場所は、行事の際に出掛けている。	近隣のコンビニへ散歩を兼ねて買い物に出かけている。感染予防のため、密を避けて外出し、希望に沿っておやつなどを購入している。中庭のベンチで日光浴をするなど、外気に触れるよう努めている。運動不足にならないよう、回廊となっているホーム内を音楽に合わせて歩くこともしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもと、少額のみ自己管理での対応をしている。その際は、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用したり、個人管理の携帯電話を使用している。ご家族や友人からの手紙のやりとりの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温には常に気を配っている。また、写真や歌詞を書いた壁紙などを貼り、季節を感じれる環境作りをしている。	リビングは明るく清潔であり、整理整頓されている。季節の花や行事の写真、利用者とともに作った作品が飾られ、ゆったりと過ごせるソファも置かれている。毎日定時に換気・消毒がおこなわれている。歌詞カードがあり、歌を歌ったり、歌に合わせて体操をするなど、積極的に体を動かしている。共有スペースは有効に使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間では、自席以外にもソファや椅子を多く配置し、自由にくつろげる環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、ご本人が使い慣れた物を準備してもらい、自宅と同じ生活が継続できるような工夫をしている。	居室には洗面所が備えられている。ベッド、布団、家族写真、チェストなど使いなれた馴染みの物が持ち込まれていた。テレビ、冷蔵庫を置いている利用者もあり、職員が冷蔵庫内の食品管理をしている。温度、湿度、換気に職員は気配りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるような環境作りに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと